

## ⑦ 知的障害者の保健衛生・看護

支援員として毎日の健康チェックを行う際、利用者の体調不良を早期発見するためにはどのような観察をするか論述しなさい。

私達は知的障害の方を支援する中で、利用者の方は自らの体調不良や痛みなどをうまく伝えられない方が多いため、私達が体調不良の第一発見者となることが多い。そのため私達支援者は利用者の一人一人の睡眠・食事・排泄・活動・癖・こだわり・表情までを捉えて「いつもと違う。何かがおかしい」という発見ができるような観察眼を持っていないといけない。

毎日行なう、バイタルチェックは利用者の状態の変化を見つける事ができる一つの方法である。その人の健康状態・どの程度元気に生存しているかを判断する項目として「生存兆候入＝バイタルサイン」が決められている。バイタルサインには①体温②脈拍数③呼吸数④血圧⑤意識レベルなどが含まれる。このバイタルサインを知る事は現在の体の状態を知る一つの目安になりいろいろな場面で大切なことである。しかし正しい値を出すためにはきちんとした測定法、例えば体温計は正しい位置に入っているか、血圧を測るときは安静な状態であるかなどを学びそれに添って行なう必要がある。またバイタルサインは個人差があるため平常値の値を知ると同時にその人個人の平均的な測定値を把握しておかなければならない。

バイタルチェックが一番利用者に近づき状態を観察できる時なので、ただ熱や血圧を測定するだけではなく、同時に話しかけを行ない体調

について話せる人からは状態を聞きだし、利用者の顔色や表情、鼻水が出ていないか咳などしていないか、指先は冷たくないか、爪の色はどうかなど細かい所まで観察を行なわなければいけない。

バイタルチェックでいつもと様子が違うと感じたときは何らかの原因が考えられるわけでの「いつも」の状態を常々知っておく事も大切である。

その利用者のいつもの状態もたくさん様子があり、①普段の食事や水分の摂取状態などは、利用者の食事摂取量や嗜好も知っておかなければいけないし、どれくらい水分を取っているかも季節や体調によっても違う。②排泄の状態も人によって毎日排便がある人や便秘気味で下剤や坐薬を使っている人もいたり、一人一人の便の状態も硬かったり柔らかかったり、尿量もそれぞれ違いがある。③睡眠も夜間よく眠る人やなかなか眠らない人、早起きの人など睡眠状況もひとそれぞれである。④定期的に健康診断を行なっているとその人の体質や健康状態を専門的に知る事が出来、続けて行う事により何らかの異常があれば早期発見することができる。中には高血圧だったり貧血気味や心臓に疾患が生まれながらにある人もいたり、それぞれの既往歴なども知っておく必要がある。

それぞれの普段の正常時の状態や最新の健

康状態を理解・把握した上で今の状態を注意深く観察し、今が正常であるかそれとも少しでも違いがある場合は体調に何らかの不具合があるということを疑わなければいけない。

実際に利用者の今の状態に何らかの変化があった場合、その前の状態は同であったかを知る事も大切である。例えば、朝のバイタルチェックをした時に体温が平熱より高く顔色もさえない事があったとき、前夜の様子や前の日にさかのぼっての状態を調べる必要がある。前日から発熱や体調不良の訴えがなかったか。何か体調の変化の前兆が見られていなかったかを見ていかなければならない。

その場合必要なのが「記録」であり、利用者一人一人の毎日の状況を書き記した情報である。利用者の支援は24時間であり日勤や夜勤を引継ぎしながら継続的に行なわれている。チームで支援を行なっている私達は記録に残された情報を元に一貫した、継続した支援を行なっていて、正確で詳細な記録と確実な次への報告や引継ぎによりスムーズに支援を行なうことが出来る。「記録」を正確に記しそれを支援する者

で共有し、支援者チーム全体で利用者を見ていこうという姿勢が良い支援を生み出していく。

このように毎日の健康チェックがいかに大切で利用者の体調不良をいかに早く見つけていくが私達の課題である。述べてきたそれぞれの注意点を忘れず日々の支援に活かしていかなければならない。私達支援員は、看護にかかる知識と経験に基づいた鋭い観察力を持つ必要があり、日々注意を払いながら接しなければいけない。利用者一人一人を前にしたときにそのときに眼に見える変化や問題点に注視するだけでなく利用者その人の生活全体を多角的・立体的・継続的に捉えるよう心がけ日々支援にあたらなければならない。

**講評：**

テキストをしっかり読んで自分の知識にしております。バイタルチェックの際は話しかけて反応を見る、顔色・表情等も見逃さない。異常を察知したら時間を遡って状態を推理してみる等観察がこまやかです。利用者、一人ひとりを平面でなく立体で捉えているところがたいへん優れています。